出張手記

女性農民グループの挑戦

東ティモール

↓プルグア集落の農民グループの女性たち

エルメラ県アッサベ郡4村内22集落を対象に実施している「農村地域の生計向上事業」。本年1月に東ティモールを訪問した際、この事業地のプルグア集落ですばらしい活動をしている女性農民グループに出会いました。

200人ほどが暮らすこの集落でCAREは、「気候変動」に対する地域の適応能力について分析するワークショップや、農業技術やジェンダーについての研修を実施しています。CAREの農業専門家の指導のもと、22人で活動する女性農民グループが、昨年初めて青梗菜（ちんげんさい）を栽培し、200束も収穫することができました。メンバーの一人、オランディーナさんに栽培の工夫について聞きました。

←収穫した玉ねぎを手に（ブイアチ集落）

「農業技術研修で聞いた有機肥料を作りました。夫が手伝ってくれ、材料となる鳥の糞を山の洞穴に取りに行きました。種は一つの穴には二つまで、一列に、間を空けて植えることなどに気を付けました。とてもよく育ってびっくりしています」

また、グループのリーダーであるマヌエラさんは、これからのグループ活動について、生き生きとした表情で語ってくださいました。「収穫した青梗菜は、村の行事の時にグループのみんなで売ると、全部で120ドルの売り上げになりました。私は家族と相談して、タイス（伝統的な手織り布）を作るための糸代と子どもの制服代にしました。タイスは家で作って、市場で売ることができるんですよ。今、植えているとうもろこしがよく実ったら、市場に売りにいこうとみんなで話しています」

このグループの女性たちは、読み書きができないため、絵を使うなど工夫を凝らして現地スタッフが対話を重ねています。

訪問時は雨季。倒木や洪水により道がふさがれたり、ぬかるみの中を何十分も歩くなど集落への道のりは簡単ではありません。現地スタッフは様々な障害に直面しながらも、集落の発展を願って奮闘しています。これからも農民グループの挑戦と、現地スタッフの奮闘を応援してくださいますよう、お願いいたします。

（マーケティング部
大森　恵実）

→現地スタッフと
駐在員の山際（左）

編集後記

●3月8日の「国際女性の日」に、今年で6回目の開催となる歩く国際協力「Walk in Her Shoes2017」がいよいよ始まります。今年は小学生の娘と一緒に、チャレンジします！ご一緒に、無理なく楽しみながら、チャリティの機会と健康を手に入れましょう！（高木）

●新体制発足に伴い、このニュースレターでも新たな試みに挑戦！編集デザインを新しい方にお願いし、編集後記も始めてみました。少しでも新しい風をお届けすることができましたでしょうか。ご意見・ご感想をお待ちしております！（甲斐）

個人支援者専用ダイヤル　TEL：03-5499-9931

公益財団法人　ケア・インターナショナル ジャパン
〒171-0031 東京都豊島区目白2-2-1 目白カルチャービル5階
TEL：03-5950-1335　FAX：03-5950-1375
E-mail：info@careintjp.org　Website：www.careintjp.org
Facebook：www.facebook.com/CAREjp　Twitter：https://twitter.com.CAREjp

※小誌へのご意見、ご感想を募集しています。
発行元までお寄せ下さい。

※このニュースレターのデザイン・レイアウトは、CAREのデザインボランティアの大橋久美様のご協力により、制作されています。

ケア・インターナショナル ジャパン　ニュースレター　CARE World Vol.32　2017年3月1日発行　発行人：目賀田 周一郎　編集：甲斐 博子

CARE World

Vol.32 ケア・インターナショナル ジャパン Newsletter March 2017

変える、女性も女子も活躍する豊かな世界に

ケア・インターナショナルジャパンは、世界90ヶ国以上で人道支援活動を行う国際NGOケア・インターナショナルの一員です。災害時の緊急・復興支援や「女性と女子」の自立支援を通して、貧困のない社会を目指しています。

Contents

page 1　事務局長のご挨拶
page 2・3　ガーナ「乳幼児の栄養改善事業」
page 4　東ティモール出張手記 & 編集後記

新事務局長体制の下、再出発する ケア・インターナショナル ジャパン

平素より当財団へのご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。2017年1月、事務局長に就任するご縁をいただきました。ご挨拶として、私の現在の想いを述べさせていただきます。

「戦後、1,000万人以上の日本人がケア・インターナショナルの物資援助を受けた。」この事実を知った時、私は大きな衝撃を受けました。当時、NGOの中でも圧倒的な支援物資を届け、8年にわたり活動を継続した団体。戦後の復興と寛容の一例であるにもかかわらず、私の周りでそれを知る人はおりませんでした。気づきの瞬間が生まれるのは、人がその事柄を受け入れる準備ができてからであると考えても、不思議なご縁。この喫驚がCAREとの出会いです。世界への恩返しは言葉だけではなく行動を伴います。

当財団は、今後、国内においてはCAREの認知度向上を図り支援者層を拡充し、国際的には他の海外メンバー国・事務所との連携強化で事業の有効性をさらに高めて参ります。また、支援者の皆さまがCAREを選ぶ理由に常に立ち戻ります。皆さまの温かいお気持ちを、そのまま助けを必要とする多くの人々に届けること、これが我々の使命です。人が生来持つ、美しい存在理由でもある利他や忠恕の思いを、世界規模での地道な支援活動に昇華させることや、受益者と喜びをともにする行動の継続が、世界に幸せの伝播を生み出すと信じております。

過去20年以上にわたり、複数の民間多国籍企業で働く中で、出身や文化、言語や立場を越えて多くの方々のお世話になってきました。今、自分が生かされていること、自分がこのような人間であることは、ご縁をいただいたそれぞれの人への感謝なくしては語れません。特に強く心に刻まれているのは、幸せや喜びはいつも人からもたらされてきたというありがたい経験です。どんな時でも“お互い様”という気持ちでもって恩返しを広く行動にする、それがこれからの私の仕事です。生きる喜びを感じた時の人の笑顔ほど尊いものはありません。今の私はその探求だけでも残りの人生をかける価値があると信じています。CAREの追求する世界を実現する歩みの中で、支援者、受益者、そして活動に関わる全ての人々がcare（思いやり）の気持ちを通して笑顔になるお手伝いをさせていただければ幸いです。

来る5月、当財団は発足30周年を迎えます。この記念すべき年に、皆さまと思いを分かち合い、小さくともゆるぎない幸せな変化を共有できることに感謝いたします。これからもCAREは女性と女子を活動の中心にすえて、貧困をなくすため、皆さまと温情のグローバル化を進めてまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

（事務局長　池田　卓生）

赤ちゃんの栄養改善を目指して、働くお母さんの小規模ビジネスを支援

2016年2月、外務省の助成を得て、ガーナの北部イーストマンプルーシー郡で開始した「乳幼児の栄養改善事業」。活動の進捗を駐在員・早水綾野がレポートします。

ガーナの北部はどんなところ？

北部は、南部と違いサバンナ気候で、とても暑く、水の確保や食料の生産が厳しい土地。乾季の農村は一面土と砂の風景が広がり、気温は45度を超える暑さです。茶色一色の風景に、鮮やかな服装をした女性たちが生き生きと映ります。

↑北部の子どもたちと早水駐在員

→南部のキリスト教徒に対し、北部はイスラム教徒が多いです

そして、北部の人たちはとても穏やか。子どもたちは人懐っこく駆け寄ってきます。大人たちは優しくそれを見守っている、ガーナの北部はそんな風景です。

どんな時にやりがいを感じるの？

上下関係が色濃いアフリカ。スタッフは私からの指示を尊重してくれる一方、本音を言えない面もあるかと想定しています。これでは現地の活動におけるチャレンジや困難を拾うことができません。そんな中、言いにくいことを相談してくれた時は、プロジェクトのスタッフとの距離を少しずつ縮められている気がします。

現地スタッフからのメッセージ

自分も、ガーナ北部の農村で育ったため、この地域の母親たちが家族を養うために夜明けから暗くなるまで苦労して働いていることを心配しながら見てきました。彼女たちのそんな努力にもかかわらず、社会的な障壁から女性たちは軽んじられ、貧しい暮らしをしています。農村の取り残された貧しい女性たちに力を与えるこのプロジェクトの一員であることを誇りに思っています。

プロジェクト・ファシリテーター
Sylvester Sanyali Bukari

1年間の滞在で、最も印象に残った出来事は？

先行事業の活動地で出会ったお母さんが、「これまでは、赤ちゃんへの授乳や離乳食についての知識がなく、間違った育て方をしていた。今ではCAREの啓発活動に参加して学んだことを実践して、子どもの体重は増え、また学校に就学した後の成績さえも良くなった気がする」と、話してくれました。赤ちゃんの時の栄養状態がその後の人生に影響を及ぼすのを実感しました。

1週間のスケジュールはどんな感じなの？

ガーナ第4の都市・タマレに拠点をおいて活動をしています。

月	タマレ事務所の定例会議（週次）、現地の上司との電話会議
火	中間報告書の作成、次年度予算作成、予算の執行状況確認
水	中間報告書の作成、次年度予算作成、予算の執行状況確認
木	フィールドへ移動 → ベースライン調査[1]トレーニング中の現地スタッフを訪問 → 現地スタッフと四半期の振り返り会議
金	ベースライン調査スタッフトレーニングに参加
土	タマレに帰宅

注1）一般的にベースライン調査とは、事業開始前の指標の状況（基準値）を把握するために行います。本事業の場合は、健康指標や食生活習慣等の調査を実施。調査を開始してから経年的に追跡調査し、開始時の健康指標等（ベースライン）と比べて、どのように変化したかを比較します。

支援者の皆さまへのメッセージ

日本の皆さまにぜひともお伝えしたいのは、現地スタッフたちの働きぶりです。北部イーストマンプルーシー郡の60のコミュニティ（神奈川県を優にカバーする面積）を対象に、毎日、道路の整わない村々をバイクで行き来して、一生懸命活動を行ってくれています。コミュニティによっては、現地拠点からバイクで2時間もかかる遠い場所もあります。雨期、ぬかるんだ道路や沼のようになってしまった小川を、バイクで乗り越えながらコミュニティへと目指すスタッフたち。彼らの姿には感銘を受けるばかりです。自分たちの手で地域を変えていこうとする彼らに、ぜひともご支援をお願いいたします。

↓女性スタッフも活躍しています

これまでの成果と今後の活動

ベースライン調査を終え、ほぼ全てのコミュニティで村落貯蓄貸付組合（VSLA）[2]が立ち上がりました。今後は、乳幼児の保護者を対象とした栄養啓発活動、VSLAの運営研修や女性起業家の育成活動に注力してきます。また、男性の巻き込みも図ることにより、ジェンダーの平等も推進していきます。

注2）20～25人の女性からなる組織で、各人が少額の現金を預けグループで管理する仕組み。女性たちは、グループで管理する資金から融資を受けることにより、農産物加工、販売、塩などの小分け販売等、各々のビジネスを起業することが可能になります。自分たちの村や近隣の村の住民がビジネスの顧客となります。

↑金庫の鍵は管理者3人が揃わないと開きません